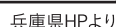


700億円



兵庫県は、6月3日、井戸敏三県知事の定例会見で県庁舎等再整備基本構想を発表。県庁舎が耐震基準を満たしていないとし、①県庁舎の再整備とともに、②県民会館の再整備、③元町駅北側の県庁舎周辺地域の開発構想を提示しました。

県庁舎建替え構想を発表

県庁舎は、現在の1号館南側に新県庁舎を建設し、現在の1号館、2号館、議会棟と建替えない3号館の二部機能を集約するとしています。そのうえ、県民会館にある団体や他の県施設からの転入も検討されています。知事は、新庁舎について、会見で「100階にはならないだろうが、もう少し検討させてほしい」と現在よりも高層となることを否定しませんが。

県は、基本構想をふまえた基本計画策定をすすめるにあたって、4日より事業者からの企画提案を受け付けるとしています。

構想では、県庁周辺の新たなにぎわいを創出すると
して現在の2号館、議会棟跡地に民間の超高級ラグジュ
アリーホテルや商業施設を誘致することとしています。
いま単独の県民会館も民間施設と複合整備すること
も検討されています。県民会館利用者からは、「もつと使
いやすくしてほしいという要望は
あるが、民間施設と一緒にした
ら、いまの機能も維持されるのか
わからない」などの意見が寄せら
れています。



県が示した構想では、県庁舎が二に分かれることになっており、行政機能として十分な役割が果たせる配置とはいえません。さらに、にぎわい創出を狙った県民会館の民間施設との複合化、元町駅含めた十分な開発計画については、県民の声を聞くこともなく、県当局が一方的に提案してきていることは否めません。党県議団は、この間、議会での協議会で、「県庁舎の耐震化は必要だと考えるが、計画ありきではなく、まずは、住民、県民の意見を聞くべきだ」と主張してきました。

県庁舎等の再整備は、県民の意見をよくふまえ、県民サービスを最大限発揮できる機能をもつものとして検討すべきです。

県が示した構想では、県庁舎が二に分かれることになつており、行政機能として十分な役割が果たせる配置とはいへません。さらに、にぎわい創出を狙つた県民会館の民間施設との複合化、元町駅含めた十分な開発計画については、県民の声を聞くこともなく、県当局が二方的に提案してきていることは否めません。党県議団は、この間、議会での協議会で、「県庁舎の耐震化は必要だと考えるが、計画ありきではなく、まずは、住民、県民の意見を聞くべきだ」と主張してきました。

